

平成27年度第4回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会
福祉サービス部会会議録

日 時 平成27年11月16日（月）午後2時から午後3時45分まで

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出 席 松村幸江部会長、飯高優子部会員、櫻井朱実部会員、小宮裕子部会員、
梅田和男部会員、山澤光史部会員、入野美弥子部会員、
平野明美部会員、伊藤英史部会員（鎌ヶ谷市障がい福祉課主査）

欠 席 山根清孝副部会長、星野暁洋部会員、佐藤弘江部会員、田辺佳子部会
員

事務局（障がい福祉課） 齊藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子庶務係長、
高橋亜也子主事
（もくせい園） 三浦幸嗣氏、花田聡子氏

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・ 式次第
- ・ 平成27年度福祉サービス部会出欠名簿
- ・ 送迎に伴うアンケート調査集計結果（付き添い）資料2
- ・ 送迎に関する各種サービス 表1、アンケート配布対象 表2（計1枚）
- ・ 送迎に伴うアンケート調査集計結果（事前配付）

1 挨拶

齊藤障がい福祉課長より挨拶があった。

事務局から、配付資料の説明と、本日の会議には、9名の部会員が出席しているため、定数である過半数を満たしていること及び傍聴者は0名であることを報告した。

部会長 送迎に伴うアンケート調査集計結果について、事務局から説明をお願いしたい。

2 議題

(1) 事務局より、送迎についての実態調査に関するアンケート及び送迎に伴うアンケート調査集計結果について説明

事務局 第3回の部会で、送迎に関することが、学校や事業所等では困難な状況であることが把握できた。このため、どの位の人が送迎を必要としているかを数値化するため、特別支援学校、特別支援学級、生活介護、就労継続支援B型、放課後等デイサービスの各事業所にアンケートを配付し、返却されたものをまとめた(添付資料 送迎に伴うアンケート調査集計結果)。また、添付資料 送迎に伴うアンケート調査集計結果(付き添い)については「問3 付き添いの有無」に記載されている143人について詳しく記述した資料となっている。これらの資料を基に議論していただきたい。

(2) 質疑応答・検討

部会長 添付資料 送迎に伴うアンケート調査集計結果(付き添い)の「問6 付き添いの年齢」を見てもらいたい。157人の付き添いには、50歳代以上も多く付き添い者も高齢化している。今後も付き添いが可能なのか、付き添いができない場合は、利用している福祉施設を休まないといけない状況が考えられるが、この結果について意見を伺いたい。

(部会員からの意見)

- ・他市でも同様の問題が見られ、高齢化については常に問題になっている。福祉施設の送迎バスで対応できる人はよいが、高齢の保護者が付き添って徒歩や車で来る姿も見受けられる。ただ、付き添いができないと在宅生活になり在宅生活も困難な場合は短期入所でもできる施設を考えている。このため、送迎サービスが月に何回かでも利用できると思うのではないかと。

部会長 学校に行っている人の、バス停までの付き添いはどうなのか。

(部会員からの意見)

- ・思春期になると保護者の車に乗れない人がいる。乗車すると暴れてしまうため、福祉サービスを利用しているが、サービスの人とは問題なく移動できる。松戸市は通所、通学にもサービスが使えるため助かっている。

- ・送迎に伴うアンケート調査集計結果（付き添い）の回収総数143枚とあるが、配付数は何枚か。

事務局 アンケート配付枚数は413枚、全体の回収総数は309枚、その中で付き添いが必要と回答した人が143人であった。

（部会員からの意見）

- ・付き添いの年齢の高齢化に驚き、個人の記述も身につまされた。付き添いの4分の3が母親で母親の負担が大きいと感じられる。核家族が増えているのか頼める人がいない家庭が多いところに目がいった。アンケートを上手くまとめてもらい有り難かった。

部会長 付き添いの年齢が50歳代以上になると、付き添いの親の介護が出てくる人もいる。親の介護と子どもの介助と重なりとても大変である。

（部会員からの意見）

- ・所属する福祉施設の付き添いの年齢は、80歳以上が1名、70歳代が3名で、車は高齢者講習を受講しながら運転している。50歳以上になると付き添い者の体調不良もあるため、将来は送迎も検討しなくてはと考えている（現在送迎は行っていない）。アンケートで送迎の必要度が高いことが明らかになった。
- ・やはり付き添いの年齢が気になる。付き添い者の体の大変さや送迎の危険が考えられる。高齢になると危険を察知する反応が遅くなり、耳も聞こえにくくなる。また、子どもが走る、交通ルールを守れない等の可能性を考えると体力的に負担となるため福祉サービスが必要である。例えば、過疎地で見られるような、手を挙げると止まるバスが運行していれば便利だと思う。
- ・付き添い者の高齢化で予想される問題として、添付資料「送迎に伴うアンケート調査集計結果（付き添い）」の「問2 通学・通所方法」の回答にある自家用車や自転車は、現在は運転できても高齢者の事故は問題になっている。学校でも、現在運転は大丈夫だが、子どもが卒業し福祉施設を利用する時に将来運転ができなくなることを考え、送迎の充実を望んでいる保護者が多い。また、送迎バス以外は保護者同伴になると思うが、送迎バスを利用したいのにルートが無い、仕事をしながらの送迎は時間が取られる等の意見もある。保護者の生活もゆとりが持てるような方法を考え送迎を改善する必要がある。

部会長 バス停まではどのように来ているのか。

（部会員の説明）

- ・だいたい自宅から遠くない場所に、学校指定の停留所があり、そこまでは保護者同伴で送ってきてもらっている。

(部会員からの意見)

- ・高齢の保護者が子どもに付き添って来る様子を見かけるが、アンケートを見ても付き添い者の高齢化がよくわかる。また、送迎バスのバス停まで行くのにどの位の時間がかかり、1日どの位の時間を費やしているのか。その時間に働きたいと考えても働けないという人もいる可能性があるので、送迎の方法等も改善、検討する必要があると思う。

部会長 送迎バスやスクールバスのバス停には、到着時刻より早い時間に行くため30分以上の時間を費やすと思われるが、送迎バスを出している福祉施設の状況（バス停までの距離等）を伺いたい。

(部会員からの意見)

- ・自宅まで送迎している。駅だと車が停車できない。半数位の人は一人で福祉施設まで行っている。
- ・親亡き後、介護者がいなくなる場合は、福祉サービスが必要なので充実させていかなくてはならないし提供できるものがあれば提供していく。高齢により、生活全般の悩みとして相談に来る人は多い。
- ・付き添いの限界が目の前に来ている。子どもが日中活動に行かないと家族の負担もある。学校だけではなく施設への送迎があれば保護者の体調不良時等に短期入所が利用できる。現在、送迎を実施している福祉施設と協力し方法を考える。行政からの助成を希望したい。
- ・送迎バスが出ていてもバス停まで行くのが大変である。
- ・小型のバスは自宅近くまで行けるが大人数の乗車ができない。

部会長 現在、1人で福祉施設まで行っている人も、行くことができなくなる可能性があるため、早めに対応することが望ましいと思われる。

(部会員からの意見)

- ・413枚のアンケート配付から、143人が付き添い必要と回答したことは、とても大きな数字だと思う。問題解消のためには、移動支援も考えていかなくてはならないし、各事業所がどこまでできるか検討する必要がある。自分の事業所でできない部分を他の事業所と協力し通所、通学ができるように考えていかなくてはいけない。難しいことだと思うが、違う事業所が協力し進めていくことができればよい。

事務局 添付資料 送迎に関する各種サービス 表1 に記載されている事業所に対し、このサービスが不足しているため実施してもらいたい等の具体的な内容を部会や自立支援協議会を通じて要望していくことができるか、皆さんの意見を伺いたい。移動支援という制度に依存するだけでは成り立たないと思われるため、どの事業所にどのような内容をどの程度依頼をするかを含め検討してもらえないか。

部会長 たすけあいの会はどうか。

(部会員からの意見)

- ・たすけあいの会の空きは少ないと思われる。何度か依頼したが利用者が多かった。また、費用は1時間1,500円となるため、利用頻度が高いと費用がかかってしまう。
- ・タクシー券は、等級により異なるが月2枚程度のため毎日とは利用できない。
- ・ボランティアセンターが利用できればよい。
- ・ハンドルの会は解散している。
- ・高齢のボランティアの人が多いため、若い人に登録してもらいたい。(保護者と同じ位の年齢だと心配)
- ・松戸市は、学校なら移動支援が利用できる。

部会長 他の事業所と連携を図り工夫できることがあるか。

(部会員からの意見)

- ・自分の事業所で送迎を行っており利用者の実費負担はない。遠方の方は利用していない。利用者は就労継続支援B型から2名、生活介護から8～9名で乗車する人は決まっている。午前8時30分に出発し9時30分に戻ってくるが、事業所のスタッフが送迎している。
- ・乗り合いにして各事業所が交替で行えればよい。

事務局 この部会で案をまとめ、それを自立支援協議会に報告し同意が得られれば、本市を通じて関連する事業所に検討してもらうよう意見を発信していける。

部会長 社会福祉協議会やボランティアセンターに現状を知ってもらう必要があるのではないか。

事務局 どのようなサービスが欲しいのか発信(このような人材が欲しいとボランティアセンターに発信)していけば、ボランティアセンターに動いてもらうことや、提供してもらえるきっかけになるのではないか。

障がいの現場で困っていることを発信して、複数の制度を組み合わせで補完しあえばいい。

(部会員からの意見)

- ・ボランティアセンターと協力してできればよい。
- ・ボランティアセンターで他事業所を紹介してもらおうが、希望する福祉サービスを利用できなかった(登録しているボランティアの有無の確認や調整が上手くいかなかった)。
- ・ボランティアセンターは高齢の方が多く登録されていると思われるため、様々な年代の人が登録し参加してくれれば活動内容も増え、利用できるのではないか。

- ・社会福祉協議会にアンケート結果を報告し部会としての希望や要望をどのように報告するのか。

事務局 部会で現状の不足しているサービスをあげ、社会福祉協議会でボランティアの登録や人材を集めてもらうよう動いてもらえるか、また、ボランティアに依頼したい内容をこの部会で決定し内容を引き継いでいくことができるか、困っている内容を外部の福祉サービス機関に取り入れてもらえるか等をまとめ自立支援協議会に報告してはどうか。困っている状況を関連する機関に訴える等を一つの方法として考えてもらい意見を伺いたい。

(部会員からの意見)

- ・利用者で、車に酔うため車両を伴うサービスを利用できない人がいる。このため、ボランティアセンター等でサービスを提供してもらえる場合は、車両を伴わず一緒に公共交通機関を利用してもらいたい。

部会長 アンケート結果を踏まえ、部会としての意見をボランティアセンターや社会福祉協議会に自立支援協議会を通じて発信していくことでよいか。

事務局 他に挙げられた意見についても精査してもらいたい。

部会長 事業所が連携して送迎の事業を立ちあげる、ボランティアセンターに依頼する等の意見の他に何かあるか。

(部会員からの意見)

- ・移動支援を通学や通所でもある程度認めてもらいたい。
- ・市として移動支援サービスを一定時間支給して欲しい。支給されれば、対応する事業所も増えるかもしれない。
- ・移動支援サービスを、週に何日か又は期間限定（3ヵ月）でも支給してもらえれば、学校もより通える（本当は毎日必要）。
- ・福祉サービスの利用に慣れていない保護者がいる。特に高齢の保護者に多く日中活動の事業所以外は利用していない。短期入所や他の事業所の見学もしていない人がいるため、自分の事業所で送迎を検討しなくてはいけない（保護者は、他の事業所を選択する気になれない、子どもは慣れたスタッフでないと対応が難しいという人が多い）。このため、スタッフが見学を勧め一緒に行くことが多い。
- ・サービスの時代ではなく契約するということが保護者にあまり周知されていない。このため、スタッフが段取りを組み一緒に対応している。
- ・長期間同じ事業所を利用していると、保護者はここしか利用できないと思ってしまう様子がある。
- ・高齢になり新しいことを行うのは、本人や保護者にとって大変である。
- ・通所が困難になると利用を控えてしまい、自宅で過ごすことが増えてしまいうが、送迎が充実していれば通所ができ、日中活動の場は確保できる。

- ・いくつかの事業所が協力し合っていくこと、ボランティアセンターに送迎サービスが必要であることを発信していく、時間はかかると思われるが体制をつくっていく。

部会長 違う福祉施設の車に乗る、スタッフと触れ合う等は、本人にはよいことだと思う。送迎の時間だけでも他の福祉施設の人達と接することは、一歩踏み出すことになると思う。

(部会員からの意見)

- ・親の高齢化は増えているため、ボランティアの養成方法を検討したらどうか。将来を考え長い目でみてという場合は時間をかけ育成していく、3障がい(知的障がい、身体障がい、精神障がい)に配慮することを理解してもらい、若い人に長く続けてもらいながら次の若い人を育成してもらうため若い人を養成していく等を検討しシステムをつくっていくことが必要である。
- ・市内の小学校等で保護者に何かのきっかけで発信できるといい。そこから、保護者がボランティアで協力してもらえるとよい。鎌ヶ谷の福祉が向上していくとよい。
- ・保護者は高齢でも車での送迎が必要なので、運転免許を返上できない。

部会長 このサービス部会では、さまざまな方法を発信していく。(長い時間をかけボランティアを養成していく、各事業所と連携を取り送迎サービスを提供していく等を検討、発信していく)また、添付資料 送迎に伴うアンケート調査集計結果(付き添い)を見ると親の病気が心配という意見が多く、現状の生活が送れなくなることへの不安が大きいと思われる。また、頼める人がいないのは若い頃から頼んでいないと思われる。

(部会員からの意見)

- ・鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会に報告する際は、このままの意見を挙げるのか。

事務局 このままではなく文章にして報告してもらおう。ただ、親の仕事の都合でサービスを導入するのではなく、本人に必要なだから支給されるということをきちんと整理したい。これらを次回の部会で検討していただきたい。

部会長 次回の部会の開催日時は平成28年1月28日(木)午後2時から総合福祉保健センター4階研修室とする。以上で本日の議題はすべて終了する。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年1月15日

氏名 松村 幸江 _____

氏名 飯高 優子 _____